

神代の昔、弟である須佐之男命のあまりの乱暴な行いに怒った天照大神は、天岩戸と呼ばれる洞窟に隠れ、世の中は闇に包まれた。困った八百万の神々は天安河原に集まり、さまざまな工夫を凝らした結果、なんとか天照大神を洞窟から連れ出すことに成功する。そして、世の中には再び明るい太陽が戻ってきた。

日本神話のなかでもとりわけ有名な天岩戸の物語をはじめ、さまざまな神話の舞台と伝えられるのが、宮崎県北部に位置する高千穂町だ。新たな一年の始まりに、美しい自然と神話ゆかりの文化に出合う旅に出掛けよう。

国見ヶ丘展望台から高千穂を見渡す。9月下旬～12月上旬に発生しやすい雲海だが、条件に恵まれば1月や2月に見られることもあるという。

## 高千穂 — 神話の里へ





神秘の峡谷と  
夜神楽を巡る

風景や暮らしのなかにある  
神話との「繋がり」

高千穂には神話ゆかりの地が多く残されているが、三田井地区の高千穂峡は天孫降臨の神話と関わりをもつ場所だ。天孫降臨神話は、天照大神の子孫が三種の神器を授けられ、地上へと降り立つ物語。高千穂峡に流れ落ちる真名井の滝の水源は、天孫降臨の際にこの地に水がなかったため、神様が水種を移した『天真名井』の湧き水と伝えられているのだ。遊覧ボートで峡谷を進むと、阿蘇

山の噴火が生んだ柱状節理の岩壁を滝が流れ落ち、翡翠色の水面が陽光に輝いていた。神話の時代から続く自然の営みを前に、ただ息を呑む。

夜、『高千穂神楽』を見学するために、高千穂神社へ。神楽殿には、200名を超える人が集まっていた。

「高千穂では、11月中旬から翌年2月上旬にかけて各集落で夜神楽が奉納されます。その時期以外にも毎晩公開される『高千穂神楽』では、全三十三番の神楽のうち、代表的な四つをご覧いただけます」とは、高千穂町企画観光課の長友優斗さん。

天岩戸から天照大神を誘い出す細女の舞や、天岩戸を開く戸取の舞など、神庭と呼ばれる舞台で行われる四番の神楽は、ときに勇壮に、ときにコミカルに、観客を神話の世界へと引き込んでいく。この『高千穂神楽』は、各集落の夜神楽の舞手が交代制で奉納しているという。

「50年ほど前から行われている『高千穂神楽』は、観光資源であると同時に、舞手が技術を磨き、継承する場にもなっています」と長友さん。高千穂では、自然の風景や日々の暮らしのなかに、神話が溶け込んでいる。ふと、そんなことを思う。



1. 高千穂峡沿いの遊歩道から眺める真名井の滝。貸しボートは人気が高いため、事前にWEBサイトで予約しておこう。2.3.4. 高千穂神社の神楽殿で毎夜開催される「高千穂神楽」も事前のWEB予約が賢明だ。



4

3

# 天岩戸神話の 舞台へ

神話の里に受け継がれる  
人々の祈りと想い

二日目は、三田井地区から車で15分ほどの岩戸地区へと向かう。最初に訪れたのが、天岩戸の洞窟を御神体として祀る天岩戸神社。境内に一歩足を踏み入れると、そこには凛とした空気が満ちていた。神職の方の案内で、西本宮の裏にある天岩戸遷拜所へ。眼の前に広がる幅18メートルの洞窟の迫力に驚かされる。「ここから10分ほど離れた場所には、八百万の神々が集まってご神議をされた天安河原もございます。そちらもぜひご参拝ください」

神職の言葉に従い、岩戸川沿いに配された遊歩道を進んで行くと、やがて天安河原が現れた。社や鳥居、

在ですし、次の世代に繋いでいきたいという想いがあります。しかし、ただ『残したい』というばかりでは、なかなか難しい。自分でできることをしっかりやって、その姿を見た人たちに『頑張ってるな。自分もやってみようか』と思ってもらえたら嬉しいです」

人々の想いに乗って、高千穂の神楽は次代へと受け継がれてゆくのだ。

注連縄が設けられた洞窟には、祈願を行う人々が積み上げた無数の石が並ぶ。その光景は、ここが今なお神域であることを物語っていた。

「日本神話の成り立ちについて、正確なことは誰にもわかりません。ただ、皇紀によると神武天皇が即位したのが、2685年前のこと。その5代前が天照大神なので、実はそれほど遠い昔の話ではないのかもしれない。その間、多くの人々が想像し、祈り、伝えてきたものが、『今』を形作っているのだと思います」

天岩戸神社で宮司を務める佐藤永周さんは、そう教えてくれた。

午後には、『天岩戸木彫』へ。里山を望む工房では、面彫師の工藤浩章さんが神楽面の制作を進めていた。大小のノミを使い分け、桐の木肌に手力雄命の力強い表情を刻む工藤さん。その手つきは、繊細で無駄がなく、惚れ惚れするほどだ。

「この仕事を始めて、今年で40年ほど。今では高千穂でこれを生業にしているのは、うちだけになりました」

そう話す工藤さんは、面彫師であると同時に、地元の神楽保存会に所属する舞手でもあるという。

「高千穂にとって、神楽は大きな存

1. 約5. 八百万の神が集まり、岩戸に隠れた天照大神を誘い出すための神議を行ったと伝えられる天安河原。自然の洞窟に掛けられた注連縄や鳥居が、ここが境界であることを表している。2. 天岩戸神社の西本宮の拝殿。神職による境内案内に参加すれば、天岩戸遷拜前に参拝することができる。4.6.7. 『天岩戸木彫』の工房で、一つひとつ神楽面を手作りする面彫師の工藤浩章さん。



## 神話の里に、 今日も新しい 朝が来る



### 神庭の夜と雲海の朝 高千穂の美しき瞬間

この旅で、どうしても泊まってみたい宿があった。岩戸地区の『天岩戸温泉村 神楽の館』は、築150年超の古民家を移築した民宿だ。「この建物は、もともと地元伝わる天岩戸夜神楽を後世に残すための練習場として使われていたもの。今も、年に一度の夜神楽の日には、岩戸地区の人々が集い、夜を徹して行われる神楽の舞台となっています」そう迎えてくれたのは、神楽の館を切り盛りする今村清美さん。同館では、宿泊の1カ月前までに予約をすれば、夜神楽の鑑賞ができる。夜の帳が下りる頃、宿の1階にある神庭で、神楽が始まった。太鼓や笛の音に合わせて天細女命が舞い始めると、場の空気は徐々に熱を帯びてゆく。前日に高千穂神社で見た神楽とは少し趣きが異なり、しなやかに、軽やかな舞いが印象的だった。「天岩戸夜神楽の始まりは、千年ほ

ど前と伝えられています。その後、近隣の集落に神楽が伝わり、やがてそれらを総称して『高千穂神楽』と呼ばれるようになりました。だから集落ごとに演目や舞い方も少しずつ異なっていて、それぞれが地元の神楽に誇りをもっているのです」

今村さんは、数年前に仲間とともに天岩戸神話の研究会を立ち上げ、地元にある神話ゆかりの地や、地名に残る神話の痕跡などの調査を進めているという。そんな話を聞きながら、この人もまた、神話の里を守り、次代に繋ぐ人なのだ、と実感する。

翌朝は、国見ヶ丘展望台へ。標高513メートルの丘に立つと、東の空から昇った太陽が、雲海を黄金色に輝かせていた。美しく、神秘的な光景。それは、日本神話において神々の領域とされる高天原を思わせた。高千穂には、神話のような風景があり、神話とともに生きる人々の営みがある。これほど美しい旅先で新しい一日を迎えられることは、とても素敵なことだ。

#### 天岩戸温泉村 神楽の館

あまのいわとのおんせんむら  
かぐらのやかた

☎0982-74-8880  
西白杵郡高千穂町  
大字岩戸92-3  
1泊2食付13,200円～  
(1室2名利用時の1名料金)  
kagurano-yakata.com

#### 天岩戸神社

あまのいわとじんじゅ

☎0982-74-8239  
西白杵郡高千穂町岩戸  
1073-1  
参拝自由(授与所、  
社務所は8:30～17:00)  
無休 参拝無料  
amanoiwato-jinja.jp

#### 高千穂峽

たかちほきょう

☎0982-73-1213(高千穂町観光協会)  
西白杵郡高千穂町大字三田井御堀井  
見学自由  
高千穂峡貸しボートの営業時間8:30～17:00  
無休(河川増水時、安全点検時などは休止)  
貸ボート料 1艇5,100円(30分)  
takachiho-kanko.info

#### 高千穂神楽

たかちほかぐら

☎0982-73-1213(高千穂町観光協会)  
西白杵郡高千穂町大字三田井1037(高千穂神社)  
観覧時間20:00～21:00  
12月31日、1月1日休  
拝観料 1,000円  
takachiho-kanko.info/kagura

#### 国見ヶ丘展望台

くにみがあてんぼうだい

☎0982-73-1213  
(高千穂町観光協会)  
西白杵郡高千穂町大字押方  
見学自由 見学無料

#### 天岩戸木彫

あまのいわときぼり

☎0982-74-8901  
西白杵郡  
高千穂町岩戸399

#### 高千穂への アクセス >>>

■飛行機/羽田空港より阿蘇くまもと空港へ、飛行機で約1時間55分。

■車/阿蘇くまもと空港より高千穂町中心部へ、国道325号などを経由して約1時間30分。

■バス/阿蘇くまもと空港より高千穂バスセンターへ、産交バス・宮崎交通「たかちほ号」で約2時間10分。



1.「天岩戸温泉村 神楽の館」の神庭で奉納される細女の舞。舞手が踵をほとんど地につけることなく、軽やかに舞うのが、天岩戸神楽の特徴だという。2.天の岩戸を探し出す様子を表現する手力雄の舞。3.1階に神庭、2階に客室を備える民宿。4.宿の目の前にはのどかな棚田風景が広がっている。5.国見ヶ丘展望台から望む雲海。

